

特集

首里城正殿が いよいよ一般公開へ



ぐんじょう または
群青の瞬き
あか しろ
紅く蘇る城

令和元年10月31日未明に発生した火災により、首里城正殿を含む建物9棟（7棟全焼、2棟一部焼損）および建物内に展示・収蔵されていた多くの美術工芸品などが焼失しました。

県では国と連携し、首里城正殿の早期復元に取り組み、県内外の皆さまから寄せられた寄附金を活用し、復元工事に用いる木材や赤瓦の調達、装飾品の製作などを進めてまいりました。

令和8年11月23日（祝・月）より、首里城正殿が一般公開されます。新

しく蘇った首里城正殿へぜひお越しください。

令和8年11月23日以降、首里城正殿へ入場するためには、日時指定の事前予約が必要です（詳細は左記の二次元コードを）参照ください。なお、首里城公園の駐車場は大変混雑しますので、公共交通機関のご利用をお願いします。

※正殿へ入場しない場合は、予約不要。



首里城公園
公式サイト

首里城正殿における寄附金を活用した主な製作物



1 赤瓦 火災で焼け残った正殿の赤瓦を砕いた粉末、クチャ、赤土などを混合し、県内で金型から製造し、正殿の屋根全体で約6万枚用いています。

2 雲形飾瓦 雨を降らせて城を火災から守る雲の形をかたどった瓦。遺物や高精細古写真などの資料を分析し、左右の大小・小を製作しています。

3 扁額 中山世土 新たな知見をもとに、地板を黄色塗り、額縁を木彫刻へと変更し、各分野の職人たちの手によって工程を一つ一つ積み重ねて製作しました。

4 大龍柱 大龍柱は、与那国島産の細粒砂岩を使用し、高精細古写真で細部形状を再検討し、丁寧に彫刻され製作しています。

5 石高欄 正殿正面の基壇および階段に取り付けられ、親柱上の獅子

は、顔の向きを少しずつ変化させるなど、職人が緻密に仕上げました。

6 礎石・礎盤 礎石は、柱の下に敷かれ建物の重みをしっかり支え、礎盤は、正面中央の4本の向拝柱を支える3段の石の盤で、中段には蓮弁文様が彫刻されています。

7 懸魚 正殿正面の唐破風に5つ金箔で縁取られ、上層屋根の南北両側の入母屋破風に中央の「無」と両側の「鯨」と「牡丹」が彫られています。

8 唐破風妻飾 正殿正面の双龍など豪華かつ細密な装飾で、高精細古写真を参考に木取りから見直すなど、富山県の彫刻師が若手とともに製作しました。

9 向拝透欄間 正殿向拝部の正面3枚、側面2枚に設置され、大輪の牡丹と美しい曲線を描く唐草、躍

動感あふれる獅子が表裏の両面に彫刻されています。

10 牡丹に獅子・唐草 正殿向拝部の奥に位置し、古写真の分析をもとに牡丹1輪と唐草から、牡丹3輪と阿吡一對の獅子が唐草に囲まれる構成に変更されています。

11 龍頭棟飾 遺物や高精細古写真に基づく形状で、全体約2000のパーツに分けて焼き上げ、伝統的な釉薬を用い、黒系の瞳など、忠実に再現しました。

12 鬼瓦 高精細古写真の分析により平成復元時より1.1倍大きく、県産の原材料の陶土や釉薬などを使用し、より忠実な姿を目指して製作しました。

13 垂飾 正殿1階の御差床上部を彩る表裏に雲龍文や火焰宝珠文に琉球古刺繍の技法を新たに取り入れ、華やかにきめ細かく表現されています。

問い合わせ 首里城復興課 電話：098-943-0140